

9月18日（後期生徒会各種委員任命式及び各種表彰）

“Challenge to Change”

後期生徒会各種委員の任命、栗田悠衣さんの弁論大会での最優秀賞の表彰、そして部活動の新人戦の表彰を行いました。この集会の前、ある英単語が思い浮かびました。みなさん、手のひらに指でチャレンジという英語を書いてみてください。“Challenge”。日本語では「挑戦」とか「やりがい」という意味です。この単語を綴るとき、私はいつもこの真ん中にそびえる二つの“ll”が大きな壁のように思えるんです。一つ目の“l”は自分という壁です。もう一つの“l”はチャレンジしようとしている物事、先ほどの表彰を例にとれば弁論であり、部活動の競技そのものの壁です。何かにチャレンジする時には、本番直前の緊張とかプレッシャーに負けそうな自分との戦いがあります。しかしそれ以前に、まず何かにチャレンジすることに「自分には無理」としり込みをする弱い自分との戦いがあります。チャレンジを決めた後は相当の努力が必要なため、本番に至るまでのプロセスの中で「きついから逃げ出そうか」とか、「もうあきらめようか」とか、自分の心に芽生える弱気の虫との戦いもあります。何事にチャレンジするにもこの自分という高い壁、最初の“l”を克服する必要があります。

そしてもう一つ立ちはだかる壁、この二つ目の“l”は自分がチャレンジしようとしていることそのものです。この二つの“ll”を克服した時、Challengeから“ll”が消えていきます。それがこれです。“Change”。自己改革です。気質は変わりませんが、性格は変わるんです。気質というのは、マイペースとかせっかちとかいったことです。しかし、チャレンジを繰り返すことで、自分の性格は変わるのです。

3年生のみんなはすでに入試に“Challenge”している人がいます。自分の壁と入試の壁に果敢にチャレンジしてください。

また、生徒会各種委員のみんなも果敢に“Challenge”して欲しいと思っています。与えられたことだけをやるのではなく、こうしたらもっといい学校になるんじゃないか、ということに果敢にChallengeしてください。学校を創るのは先生方だけではありません。学校を創り、変えるのは生徒のみんなの斬新なアイデアであり、パワーであり、行動力です。時代は令和です。新しいものを生み出す、創造(creativity)の時代です。私の頭の中には、117年という歴史を持つ口加高校のためにも、全てを現状維持とか前例踏襲ということは考えていません。「果敢に一步前に踏み出す勇気」つまりチャレンジ精神が自分を変えてくれるのです。黙って突っ立っていても自分は変わりません。何かにチャレンジすると思い描いたとおりの結果が出るときもあれば、まあまあの結果の時もあり、自分の目標とは程遠いこともあります。しかし、結果はどうであれ果敢にチャレンジすることで、この二つの“ll”を克服し、change（成長）できるのです。

私は常々、口加高校を「島原半島の最南端にある最先端の学校」したいと考えています。最先端の学校の条件の一つは、生徒たちがみんな生き生き、伸び伸びと“Challenge”している学校です。人生に失敗はありません。失敗と書いて「せいちょう」とよむのが口加魂であり、オレンジスピリットです。

最後にことばを贈ります。“Challenge to Change”（自分を変えるために挑む）